

mendex : 索引整形ツール

アスキー・メディアワークス

日本語 T_EX 開発コミュニティ

2021 年 6 月 25 日

概要

mendex は文書の索引を作成するコマンドラインツールです。L^AT_EX により抽出された索引リストファイル (.idx) を並べ替え、実際の索引のソースファイルの形に整形します。makeindex と互換性があり、さらに「読み」の扱いの手間を減らすように特殊化されています。出力される索引の形式は、スタイルファイルに従って決定されます。また、辞書ファイルを与えることにより、索引中の漢字の読みが登録されます。索引の階層は 3 段階まで作成することができます。

目次

1	使用法	2
1.1	オプション	2
1.2	スタイルファイル	3
1.3	参考：makeindex との比較	7
2	日本語の扱いについて	7
3	ソート方法について	8
4	環境変数について	8
5	既知の問題	8
6	トラブルシューティング	8
6.1	gind.ist や gglo.ist が使えない	9
6.2	漢字の読みを与えたつもりなのにエラーが出る	9
7	バグ報告先・開発元	9
付録 A	索引スタイルの例 (jpbase.ist)	10

1 使用法

はじめに mendex の使用法を示します。

```
mendex [-ilqrcgfEJSU] [-s <sty>] [-d <dic>] [-o <ind>] [-t <log>] [-p <no>] [-I <enc>]  
      [--help] [--] [<idx0> <idx1> <idx2> ...]
```

1.1 オプション

mendex で利用可能なオプションは以下の通りです。

- i 索引リストファイルが指定されている場合でも、標準入力を索引リストとして使用します。
- l 単語と単語の間のスペースを無視して詰め、索引のソートを文字順で行います。指定されなければ単語順のソートになります（ソート方法については後述）。
- q 静粛モードです。エラーおよび警告以外は標準エラー出力に出力しません。
- r ページ範囲表現を無効にします。指定しないと、連続して出てくる索引については“1-5”のようにページ範囲で表現されます。
- c スペースやタブといったブランクを短縮して、すべて1個の半角スペースにします。また、前後のブランクは削除されます。
- g 日本語の頭文字の区切りを「あかさた……わ」にします。指定しないと「あいうえ……わゐゑをん」になります。
- f 辞書ファイルにない漢字も強制的に出力するモードです。
- s <sty> ファイル <sty> をスタイルファイルと見なします。スタイルファイルを指定しなければ、デフォルトの索引形式で作成します。
- d <dic> ファイル <dic> を辞書ファイルと見なします。辞書ファイルは日本語の“<漢字> <読み>”のリストで構成されます。
- o <ind> ファイル <ind> を出力ファイルと見なします。指定がない場合は最初の入力ファイルの拡張子を.indとしたもの、入力ファイルが標準入力のみであれば標準出力に出力します。
- t <log> ファイル <log> をログファイルと見なします。指定がない場合は最初の入力ファイルの拡張子を.ilgとしたもの、入力ファイルが標準入力のみであれば標準エラー出力のみに出力されます。
- p <no> <no> を索引ページの先頭ページとして指定します。また、 \TeX のログファイル(.log)を参照することにより any (最終ページの次のページから), odd (最終ページの次の奇数ページから), even (最終ページの次の偶数ページから) といった指定の仕方も可能です。
- E 入出力文字エンコーディングを EUC-JP に指定します。入力ファイル, 出力ファイルとも EUC-JP として扱います。
- J 入出力文字エンコーディングを JIS (ISO-2022-JP) に指定します。入力ファイル, 出力ファイルとも JIS として扱います。
- S 入出力文字エンコーディングを Shift_JIS に指定します。入力ファイル, 出力ファイルとも Shift_JIS として扱います。
- U 入出力文字エンコーディングを UTF-8 に指定します。入力ファイル, 出力ファイルとも UTF-8

として扱います。

- I *<enc>* 内部バッファの文字エンコーディングを *<enc>* に指定します。 *<enc>* には euc (EUC-JP) または utf8 (UTF-8) が指定可能です。このオプションが指定されていない場合のデフォルト値は utf8 です*1。
- help オプションの要約を表示します。
- 以降はオプション文字列と解釈しません。これは、ファイル名の先頭の文字が-であるファイルを扱う場合に有用です。

以上のうち、オプション -U, -I, --help, -- はオリジナルのアスキー版にはなかった機能で、日本語 T_EX 開発コミュニティによって追加されました。また、mendex version 3.5 [6-Jun-2021] 以降では、-s オプションによるスタイルファイルを複数指定することができます。同じパラメータが複数回指定された場合は、後から指定された方が有効になります。

1.2 スタイルファイル

スタイルファイルは makeindex のものと上位互換です。形式は “(スタイルパラメータ) (引数)” のリストで構成されます。パラメータの記述順序は自由です。また ‘%’ 以降はコメントと見なされます。

以下にスタイルパラメータとそのデフォルト値の一覧を示します。

- 文字列型は ‘a’ のように単引用符で囲みます。
- 文字型は “abc” のように二重引用符で囲みます。
- 整数型は単に 「1」 のように 10 進数表記で記述します。

基本的には 1 行に 1 項目を記述しますが、文字列型はその値の直前や値の途中で改行しても構いません。

■入力ファイルスタイルパラメータ

keyword	〈文字列〉 規定値：“\\indexentry” 処理対象とする索引エントリを引数として持つコマンド。 入力ファイル (.idx) に現れるエントリのうち、mendex は keyword で指定された以外の項目を無視します。
arg_open	〈文字〉 規定値：‘{’ 索引エントリ文字列開始を表す文字。
arg_close	〈文字〉 規定値：‘}’ 索引エントリ文字列終了を表す文字。
range_open	〈文字〉 規定値：‘(’ ページ範囲の開始を示す文字。
range_close	〈文字〉 規定値：‘)’ ページ範囲の終了を示す文字。
level	〈文字〉 規定値：‘!’

*1 v2.6f までは「デフォルト値が euc で、オプション -U が明示的に指定されている場合は utf8 となる」という仕様でしたが、v3.0 で変更しました。

従属レベルであることを示す文字.

actual	〈文字〉 規定値: '@' このシンボルに続く文字列が実際の索引文字列として出力ファイルに書かれる. makeindex で日本語の索引を作成しようとする時、全ての項目について <code>\index{かんじ@漢字}</code> のように actual のシンボルの前に「読み」を、後ろに実際に表示する索引文字列を書く必要がありました. mendex では、辞書ファイルを用いることで、その手間を最小限にできます.
encap	〈文字〉 規定値: ' ' このシンボルに続く文字列が、ページ番号に付くコマンド名として使われる.
page_compositor	〈文字列〉 規定値: "-" 階層化されたページ番号における階層間の区切り文字.
page_precedence	〈文字列〉 規定値: "rnaRA" ページ番号の記法の優先順位. 'R' および 'r' はローマ数字, 'n' はアラビア数字, 'A' および 'a' はアルファベットによる記法を表す.
quote	〈文字〉 規定値: ''' mendex のパラメータ文字に対するエスケープキャラクタ.
escape	〈文字〉 規定値: '\\' 一般的な文字に対するエスケープキャラクタ.

■出力ファイルスタイルパラメータ

preamble	〈文字列〉 規定値: "\\begin{theindex}\n" 出力ファイル先頭の文字列.
postamble	〈文字列〉 規定値: "\n\n\\end{theindex}\n" 出力ファイル末尾の文字列.
setpage_prefix	〈文字列〉 規定値: "\n_u\\setcounter{page}{" 開始ページを設定するときの、ページ番号の前に付ける文字列.
setpage_suffix	〈文字列〉 規定値: "}\n" 開始ページを設定するときの、ページ番号の後に付ける文字列.
group_skip	〈文字列〉 規定値: "\n\n_u\\indexspace\n" 新項目(頭文字)の前に挿入する縦スペースを表す文字列.
lethead_prefix	〈文字列〉 規定値: "" 頭文字の前に付けるコマンド文字列. makeindex はこのパラメータを認識しません.
heading_prefix	〈文字列〉 規定値: "" lethead_prefix と同じ. (makeindex 互換)
lethead_suffix	〈文字列〉 規定値: "" 頭文字の後に付けるコマンド文字列. makeindex はこのパラメータを認識しません.
heading_suffix	〈文字列〉 規定値: "" lethead_suffix と同じ. (makeindex 互換)
lethead_flag	〈整数〉 規定値: 0

頭文字の出力のフラグ. 0 のとき出力しない. 0 より大きいときは英字を大文字で, 0 より小さいときは小文字で出力する. `makeindex` はこのパラメータを認識しません.

`heading_flag` (整数) 規定値: 0
`lethead_flag` と同じ.
`makeindex` では `headings_flag` という名称のため, 互換性がありません.

`item_0` (文字列) 規定値: "`\n0\item`"
主エントリ間に挿入するコマンド.

`item_1` (文字列) 規定値: "`\n1\subitem`"
サブエントリ間に挿入するコマンド.

`item_2` (文字列) 規定値: "`\n2\subsubitem`"
サブサブエントリ間に挿入するコマンド.

`item_01` (文字列) 規定値: "`\n01\subitem`"
主-サブエントリ間に挿入するコマンド.

`item_x1` (文字列) 規定値: "`\nx1\subitem`"
主-サブエントリ間に挿入するコマンド (主エントリにページ番号がないとき).

`item_12` (文字列) 規定値: "`\n12\subsubitem`"
サブ-サブサブエントリ間に挿入するコマンド.

`item_x2` (文字列) 規定値: "`\nx2\subsubitem`"
サブ-サブサブエントリ間に挿入するコマンド (サブエントリにページ番号がないとき).

`delim_0` (文字列) 規定値: ",₀"
主エントリと最初のページ番号の間の区切り文字列.

`delim_1` (文字列) 規定値: ",₁"
サブエントリと最初のページ番号の間の区切り文字列.

`delim_2` (文字列) 規定値: ",₂"
サブサブエントリと最初のページ番号の間の区切り文字列.

`delim_n` (文字列) 規定値: ",_n"
ページ番号間の区切り文字列. どのエントリレベルにも共通.

`delim_r` (文字列) 規定値: "--"
ページ範囲を示すときの, ページ番号間の区切り文字列.

`delim_t` (文字列) 規定値: ""
ページ番号のリストの終端に出力する文字列.

`suffix_2p` (文字列) 規定値: ""
ページ番号が 2 ページ連続する場合に, `delim_n` と 2 ページ目の番号の代わりに付加する文字列. 文字列が定義されている場合にのみ有効.

`suffix_3p` (文字列) 規定値: ""
ページ番号が 3 ページ連続する場合に, `delim_r` と 3 ページ目の番号の代わりに付加する文字列. `suffix_mp` より優先される. 文字列が定義されている場合にのみ有効.

`suffix_mp` (文字列) 規定値: ""
ページ番号が 3 ページまたはそれ以上連続する場合に, `delim_r` と末尾のページ番号

1.3 参考：makeindex との比較

mendex は基本的に makeindex と互換ですが、以下の点で異なります。

- makeindex には索引項目の分類として「記号」、「アルファベット」の他に、数字のみの項目として「数字」という分類がありますが、mendex では数字は「記号」に含まれます。また、makeindex に存在するスタイルパラメータのうち、numhead_positive と numhead_negative は認識されません。
- 数字・記号→欧文→和文の順にこだわらない索引の作成が可能です (character_order パラメータを追加)。他に mendex で追加されたスタイルパラメータには、symbol, symbol_flag, letter_head, priority があります。
- makeindex の headings_flag は、mendex では heading_flag となっており、互いに互換性はありません。また、lethead_flag, lethead_prefix, lethead_suffix は、かつて makeindex の文書で言及されていましたが、現在は削除され mendex 専用となっています。
- makeindex の項目の並び順は、頭文字は「記号」「数字」「アルファベット」に分けて並べられますが、2文字目以降は単純に ASCII コード順となり、記号よりアルファベットが先になる場合もあります。mendex の英数字の並びは、2文字目以降も「記号」「数字」「アルファベット」の分類が考慮されます。
- makeindex には -g オプションでドイツ語辞書順 (記号→アルファベット小文字→アルファベット大文字→数字) で並べるようにできますが、mendex ではサポートしていません。代わりに、-g オプションは日本語の頭文字の区切りを切り換えるオプションになっています。

2 日本語の扱いについて

mendex は日本語の索引をできるだけ楽に扱えるようになっています。makeindex では日本語の索引が正しく辞書順にソートするためには、ひらがなまたはカタカナに揃え、拗音、撥音、濁点を除いた読みを付けなければなりません (自動的に揃えるバージョンもある)。mendex ではカナについてはすべて自動的に揃え、また漢字については辞書ファイルを設定することにより各索引語ごとに読みを付ける作業をかなり解消できます。以下に内部でのカナの変換例を示します。

かぶしきがいしゃ	かふしきかいしゃ
マッキントッシュ	まつきんとつしゆ
ワープロ	わあふろ

辞書ファイルは“〈漢字〉〈読み〉”のリストで構成されます。〈漢字〉と〈読み〉の区切りはタブまたはスペースです。以下に辞書の例を示します。

漢字	かんじ
読み	よみ
環境	かんきょう
α	アルファ

辞書に登録する漢字については、読み方が1通りになるよう送り仮名を付けてください。「表」、「性質」のように送り仮名によらず2通りの読み方ができる語についてはどちらか1つしか登録できません。他の読み

方については各索引語へ読みを付けることで対応してください。また、環境変数 `INDEXDEFAULTDICTIONARY` に辞書ファイルを登録することにより、自動的に辞書を参照します。環境変数に登録した辞書は `-d` で指定した辞書と併用できます。

3 ソート方法について

`mendex` は通常は入力された索引語をそのままソートします。 `-l` オプションが付けられた場合、複数の単語で構成される索引語については、ソートするときに単語と単語の間のスペースを詰めてソートします。ここでは前者を単語順ソート、後者を文字順ソートと呼ぶことにします。文字順ソートの場合、実際に出力される文字列はスペースを含んだ状態のもので、索引語自体が変化することはありません。以下に例を示します。

単語順ソート	文字順ソート
X Window	Xlib
Xlib	XView
XView	X Window

また、日本語 - 英字間でも似たようなソート方法があります。スタイルファイルで `priority` を 0 以外に指定した場合、隣接した日本語と英字の間に半角スペースを入れてソートします。以下に例を示します。

<code>priority 0</code>	<code>priority 1</code>
<code>index sort</code>	<code>ind ファイル</code>
<code>ind ファイル</code>	<code>index sort</code>

4 環境変数について

`mendex` では以下のような環境変数を使用しています。

<code>INDEXSTYLE</code>	索引スタイルファイルがあるディレクトリ。
<code>INDEXDEFAULTSTYLE</code>	デフォルトで参照する索引スタイルファイル。
<code>INDEXDICTIONARY</code>	辞書があるディレクトリ。
<code>INDEXDEFAULTDICTIONARY</code>	常に参照する辞書ファイル。

5 既知の問題

複数のページ記法を使用する場合、ページ順に索引リストファイル (`.idx`) を与えないとページ番号を誤認することがあります。

6 トラブルシューティング

`mendex` でも、`makeindex` 用のスタイルファイルを流用することができる場合があります。ただし、期待通りに動作しない場合もあるため、注意点を挙げておきます。

6.1 gind.ist や gglo.ist が使えない

L^AT_EX 2_ε 付属の gind.ist や gglo.ist は, doc パッケージと併用することを想定して作られています.

```
! Undefined control sequence.
1.3 \makeatletter\scan@allowedfalse
```

のエラーを避けるために, \usepackage{doc} を追加してください.

6.2 漢字の読みを与えつつもりにエラーが出る

辞書ファイルを使用しない, あるいは辞書ファイルと異なる読みを個別指定する場合に \index{かんじ@漢字} の書式で「読み」を指定したにもかかわらず,

```
Error: 漢字 is no entry in dictionary file in mybook.idx, line 1.
0 entries accepted, 1 rejected.
```

のようなエラーが出て, 索引が作成されないことがあります. ここでオプション -f を使用しても, 実際に出力される索引文字列が かんじ@漢字 となってしまいます.

この原因の多くは, スタイルファイルが actual を @ から他の文字に変更している場合です. 例えば gind.ist や gglo.ist, その派生スタイルファイルは actual を = に変更していますので, それらを使用する場合は \index{かんじ=漢字} の書式を用いるのが正しい「読み」の指定法です.

7 バグ報告先・開発元

現在, mendex は日本語 T_EX 開発コミュニティによりメンテナンスされています.

- <https://github.com/texjorg/tex-jp-build> (本体のソースコード)
- <https://github.com/texjorg/mendex-doc> (この文書を含むドキュメント類)

参考文献

- [1] 吉永 徹美 著, 「LaTeX2e 辞典 増補改訂版」, 翔泳社, 2018.
- [2] munepi, 「ぼくのかんがえたさいきょうの LaTeX 索引スタイルファイル」, 2019/12/09.
<https://qiita.com/munepi/items/2e1524859e24b5fb44bc>
- [3] Yoshiki KUMAZAWA, 「makeidx.sty: LaTeX パッケージ」.
<http://xyoshiki.web.fc2.com/tex/makeidx.html>

付録 A 索引スタイルの例 (jpbased.ist)

この文書と一緒に配布している索引スタイル `jpbased.ist` について説明します。
主な内容は以下の通りです (全体は実際のファイル参照)。

```
%% Use general commands (M. Yamamoto, @munepi)
headings_flag      1
heading_prefix     "\n\makeidxhead{"
heading_suffix     "}"
delim_0            "\\idxdelim "
delim_1            "\\idxdelim "
delim_2            "\\idxdelim "
symhead_positive  "\\symbolindexname"
%
heading_flag       1
symbol             "\\symbolindexname"
%
%% Custom settings for mendex
% 見出しをひらがなで出力: 2 (既定値はカタカナ: 1)
letter_head        2
% 並べ替え順を日本語→英字→記号/数字に変更するなら以下を有効に
%character_order  "JESN"
% 日本語と英字の間に半角スペースを入れてソートするなら以下を有効に
%priority          1
%
%% Output design based on dot.ist by Y. Kumazawa
preamble           "\\begin{theindex}\n
\\providecommand\\idxdelim{\\space\\dotfill\\space}
\\providecommand\\makeidxhead[1]{...(略)... #1 ...(略)...}
\\providecommand\\symbolindexname{Symbols}\n"
postamble          "\n\n\\end{theindex}\n"
```

このスタイルでは

- 見出しの飾り → `\makeidxhead`
- 索引項目とページ番号の区切り → `\idxdelim`
- 記号・数字類の見出し文字列 → `\symbolindexname`

という \LaTeX 命令に切り出すことで、ユーザが \LaTeX の範囲内で自由にデザインを定義できるようにしています。デフォルトの定義も `preamble` パラメータで与えますので、これらの命令を定義せずに `jpbased.ist`

単体でも動作します。既定のデザインは以下のように定義しています。

```
\providecommand{\idxdelim}{\space\dotfill\space}
\providecommand{\makeidxhead}[1]{\vbox{\hbox to \linewidth{%
  \sffamily\bfseries #1\ \hskip\fill}\vskip1pt\hrule}}\nopagebreak}
\providecommand{\symbolindexname}{Symbols}
```

これらの命令をプリアンブルで予め定義しておけば、それが優先されます。例えば

```
\newcommand{\makeidxhead}[1]{\vbox{\hbox to \linewidth{%
  ■\hfill\sffamily\bfseries #1\hfill ■}\vskip1pt\hrule}}\nopagebreak}
```

とすれば見出しの表示形式が ■ あ ■ になりますし、

```
\newcommand{\symbolindexname}{記号・数字}
```

とすれば記号類の見出しが「Symbols」から「記号・数字」に変わります。

以降のページでは、索引スタイルおよびオプションの適用例を示します。

- `mendex sample` (デフォルト通り)
- `mendex -s jpbase sample` (スタイル適用)
- `mendex -s jpbase -g sample` (さらに頭文字の区切りを「あかさ…わ」に)
- 上記スタイルに `priority 1` を追加 (`align` 環境 と `alignat` 環境 の順序に注目)
- 上記スタイルに `character_order "JESN"` を追加
- `mendex -s jpbase -g -l sample` (空白文字を無視して文字順ソートに)

索引スタイル `jpbase.ist` をベースに一部変更したい場合は、ファイルを複製して別名に変更してから編集すると良いでしょう。なお、`mendex version 3.5 [6-Jun-2021]` 以降で利用可能な「スタイルファイルを複数指定できる機能」を用いれば、元の `jpbase.ist` からの追加パラメータのみ記載した小さなスタイルファイル (例えば `mystyle.ist`) を準備して、以下のコマンドで簡単に適用できます。

```
$ mendex -s jpbase -s mystyle ...
```

なお、サンプルとして使用した `sample.idx` は以下の通りです (一部のみ)。

```
% sample.idx
\indexentry{DVI viewer}{18}
\indexentry{コンパイル}{18}
\indexentry{ログファイル}{18}
\indexentry{dvips}{22}
...(略)...
\indexentry{alignかんきょう@align環境}{183}
\indexentry{alignatかんきょう@alignat環境}{184}
...(略)...
\indexentry{キャプション}{288}
\indexentry{フオート}{288}
\indexentry{graphicsパッケージ}{300}
\indexentry{graphicxパッケージ}{300}
```

索引の例 0 (mendex デフォルト)

<, 35, 146

>, 35, 146

abstract 環境, 87
alignat 環境, 184
align 環境, 183
array 環境, 203
ascmac パッケージ, 234

cases 環境, 182

description 環境, 94
DVI viewer, 18
dvips, 22

enumerate 環境, 93, 281
eqnarray 環境, 173
equation 環境, 153, 172

gather 環境, 185
graphics パッケージ, 300
graphicx パッケージ, 300

itemize 環境, 92

minipage 環境, 137, 285
multiline 環境, 185

NFSS, 52

picture 環境, 220, 287
plext パッケージ, 266, 279

quotation 環境, 97
quote 環境, 97

tabbing 環境, 190, 194
tabular 環境, 203, 286

verbatim 環境, 99

アクセント記号, 156

エンコード, 52, 63
演算子, 158

カウンタ, 131
下線, 168
関係演算子, 159, 162
漢数字, 280

キャプション, 288
行列, 169
ギリシャ文字, 161

クラスファイル, 45

合字, 34
コンパイル, 18

サイズ, 53, 68

シェイプ, 53, 67

書体定義ファイル, 75
シリーズ, 52, 66

相互参照, 244

ディスプレイ数式, 152
テキスト数式, 152

二項演算子, 163

パッケージファイル, 45

ファミリー, 52, 64
プリアンブル, 44
プリミティブ, 113
フロート, 288
フロートオブジェクト, 210
分数, 167

平方根, 168

傍点, 282
ボックス, 134

連数字, 279

ログファイル, 18

索引の例 1 (mendex -s jpbase)

Symbols

<	35, 146
>	35, 146

A

abstract 環境	87
alignat 環境	184
align 環境	183
array 環境	203
ascmac パッケージ	234

C

cases 環境	182
----------	-----

D

description 環境	94
DVI viewer	18
dvips	22

E

enumerate 環境	93, 281
eqnarray 環境	173
equation 環境	153, 172

G

gather 環境	185
graphics パッケージ	300
graphicx パッケージ	300

I

itemize 環境	92
------------	----

M

minipage 環境	137, 285
multiline 環境	185

N

NFSS	52
------	----

P

picture 環境	220, 287
plext パッケージ	266, 279

Q

quotation 環境	97
quote 環境	97

T

tabbing 環境	190, 194
tabular 環境	203, 286

V

verbatim 環境	99
-------------	----

あ

アクセント記号	156
---------	-----

え

エンコード	52, 63
演算子	158

か

カウンタ	131
------	-----

下線	168
関係演算子	159, 162
漢数字	280

き

キャプション	288
行列	169
ギリシャ文字	161

く

クラスファイル	45
---------	----

こ

合字	34
コンパイル	18

さ

サイズ	53, 68
-----	--------

し

シェイプ	53, 67
書体定義ファイル	75
シリーズ	52, 66

そ

相互参照	244
------	-----

て

ディスプレイ数式	152
テキスト数式	152

に

二項演算子	163
-------	-----

は

パッケージファイル	45
-----------	----

ふ

ファミリー	52, 64
プリアンブル	44
プリミティブ	113
フロート	288
フロートオブジェクト	210
分数	167

へ

平方根	168
-----	-----

ほ

傍点	282
ボックス	134

れ

連数字	279
-----	-----

ろ

ログファイル	18
--------	----

索引の例 2 (mendex -s jpbase -g)

Symbols

<	35, 146
>	35, 146

A

abstract 環境	87
alignat 環境	184
align 環境	183
array 環境	203
ascmac パッケージ	234

C

cases 環境	182
----------	-----

D

description 環境	94
DVI viewer	18
dvips	22

E

enumerate 環境	93, 281
eqnarray 環境	173
equation 環境	153, 172

G

gather 環境	185
graphics パッケージ	300
graphicx パッケージ	300

I

itemize 環境	92
------------	----

M

minipage 環境	137, 285
multiline 環境	185

N

NFSS	52
------	----

P

picture 環境	220, 287
plext パッケージ	266, 279

Q

quotation 環境	97
quote 環境	97

T

tabbing 環境	190, 194
tabular 環境	203, 286

V

verbatim 環境	99
-------------	----

あ

アクセント記号	156
エンコード	52, 63
演算子	158

か

カウンタ	131
下線	168

関係演算子	159, 162
漢数字	280
キャプション	288
行列	169
ギリシャ文字	161
クラスファイル	45
合字	34
コンパイル	18

さ

サイズ	53, 68
シェイプ	53, 67
書体定義ファイル	75
シリーズ	52, 66
相互参照	244

た

ディスプレイ数式	152
テキスト数式	152

な

二項演算子	163
-------	-----

は

パッケージファイル	45
ファミリ	52, 64
プリアンブル	44
プリミティブ	113
フロート	288
フロートオブジェクト	210
分数	167
平方根	168
傍点	282
ボックス	134

ら

連数字	279
ログファイル	18

索引の例 3 (スタイルに priority 1 を追加)

Symbols

<	35, 146
>	35, 146

A

abstract 環境	87
align 環境	183
alignat 環境	184
array 環境	203
ascmac パッケージ	234

C

cases 環境	182
----------	-----

D

description 環境	94
DVI viewer	18
dvips	22

E

enumerate 環境	93, 281
eqnarray 環境	173
equation 環境	153, 172

G

gather 環境	185
graphics パッケージ	300
graphicx パッケージ	300

I

itemize 環境	92
------------	----

M

minipage 環境	137, 285
multiline 環境	185

N

NFSS	52
------	----

P

picture 環境	220, 287
plext パッケージ	266, 279

Q

quotation 環境	97
quote 環境	97

T

tabbing 環境	190, 194
tabular 環境	203, 286

V

verbatim 環境	99
-------------	----

あ

アクセント記号	156
エンコード	52, 63
演算子	158

か

カウンタ	131
下線	168

関係演算子	159, 162
漢数字	280
キャプション	288
行列	169
ギリシャ文字	161
クラスファイル	45
合字	34
コンパイル	18

さ

サイズ	53, 68
シェイプ	53, 67
書体定義ファイル	75
シリーズ	52, 66
相互参照	244

た

ディスプレイ数式	152
テキスト数式	152

な

二項演算子	163
-------	-----

は

パッケージファイル	45
ファミリ	52, 64
プリアンブル	44
プリミティブ	113
フロート	288
フロートオブジェクト	210
分数	167
平方根	168
傍点	282
ボックス	134

ら

連数字	279
ログファイル	18

注：例 2 と注意深く見比べてください。既定では日本語文字よりも英字の方が先 (“alignat 環境” → “align 環境”) ですが、**priority** を 1 に設定すると、日本語 - 英字間に半角スペースを入れてソートされるため、順番が入れ替わります。

索引の例 4 (スタイルに `character_order "JESN"` を追加)

あ		E	
アクセント記号	156	enumerate 環境	93, 281
エンコード	52, 63	eqnarray 環境	173
演算子	158	equation 環境	153, 172
か		G	
カウンタ	131	gather 環境	185
下線	168	graphics パッケージ	300
関係演算子	159, 162	graphicx パッケージ	300
漢数字	280	I	
キャプション	288	itemize 環境	92
行列	169	M	
ギリシャ文字	161	minipage 環境	137, 285
クラスファイル	45	multiline 環境	185
合字	34	N	
コンパイル	18	NFSS	52
さ		P	
サイズ	53, 68	picture 環境	220, 287
シェイプ	53, 67	plext パッケージ	266, 279
書体定義ファイル	75	Q	
シリーズ	52, 66	quotation 環境	97
相互参照	244	quote 環境	97
た		T	
ディスプレイ数式	152	tabbing 環境	190, 194
テキスト数式	152	tabular 環境	203, 286
な		V	
二項演算子	163	verbatim 環境	99
は		Symbols	
パッケージファイル	45	<	35, 146
ファミリ	52, 64	>	35, 146
プリアンブル	44	A	
プリミティブ	113	abstract 環境	87
フロート	288	align 環境	183
フロートオブジェクト	210	alignat 環境	184
分数	167	array 環境	203
平方根	168	ascmac パッケージ	234
傍点	282	C	
ボックス	134	cases 環境	182
ら		D	
連数字	279	description 環境	94
ログファイル	18	dvips	22
A		DVI viewer	18
abstract 環境	87		
align 環境	183		
alignat 環境	184		
array 環境	203		
ascmac パッケージ	234		
C			
cases 環境	182		
D			
description 環境	94		
dvips	22		
DVI viewer	18		

注：例 2 と注意深く見比べてください。なお、ここで `priority` は 0 のままとしています。 `character_order` の文字種の判別においては、半角スペースも記号類として扱われます。その結果、日本語文字より英字が後 (“align 環境” → “alignat 環境”) かつ、英字より半角スペースが後 (“dvips” → “DVI viewer”) になっています。

索引の例 5 (mendex -s jpbase -g -l)

Symbols

<	35, 146
>	35, 146

A

abstract 環境	87
alignat 環境	184
align 環境	183
array 環境	203
ascmac パッケージ	234

C

cases 環境	182
----------------	-----

D

description 環境	94
dvips	22
DVI viewer	18

E

enumerate 環境	93, 281
eqnarray 環境	173
equation 環境	153, 172

G

gather 環境	185
graphics パッケージ	300
graphicx パッケージ	300

I

itemize 環境	92
------------------	----

M

minipage 環境	137, 285
multiline 環境	185

N

NFSS	52
------------	----

P

picture 環境	220, 287
plext パッケージ	266, 279

Q

quotation 環境	97
quote 環境	97

T

tabbing 環境	190, 194
tabular 環境	203, 286

V

verbatim 環境	99
-------------------	----

あ

アクセント記号	156
エンコード	52, 63
演算子	158

か

カウンタ	131
下線	168

関係演算子	159, 162
漢数字	280
キャプション	288
行列	169
ギリシャ文字	161
クラスファイル	45
合字	34
コンパイル	18

さ

サイズ	53, 68
シェイプ	53, 67
書体定義ファイル	75
シリーズ	52, 66
相互参照	244

た

ディスプレイ数式	152
テキスト数式	152

な

二項演算子	163
-------------	-----

は

パッケージファイル	45
ファミリ	52, 64
プリアンブル	44
プリミティブ	113
フロート	288
フロートオブジェクト	210
分数	167
平方根	168
傍点	282
ボックス	134

ら

連数字	279
ログファイル	18

注：例 2 と注意深く見比べてください。-l オプションにより空白文字を無視して文字順 (P → V) に並べたため、“dvips” → “DVI viewer” の順番に入れ替わりました。